

**製品名: IL-10 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12484**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IL10
別名	IL10; Interleukin-10; IL-10; Cytokine synthesis inhibitory factor; CSIF
遺伝子 ID	3586.0
SwissProt ID	P22301
免疫原	抗血清はヒト IL10 の内部領域由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 71-120

**背景**

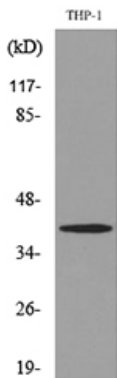
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、主に単球によって産生され、リンパ球によっても少量産生されるサイトカインです。このサイトカインは免疫調節と炎症において多面的な作用を有します。Th1 サイトカイン、MHC クラス II 抗原、およびマクロ

ファージ上の共刺激分子の発現を抑制します。また、B細胞の生存、増殖、および抗体産生を促進します。このサイトカインはNF- $\kappa$ Bの活性を阻害し、JAK-STATシグナル伝達経路の調節に関与しています。マウスを用いたノックアウト研究では、このサイトカインが腸管における重要な免疫調節因子として機能することが示唆されています。この遺伝子の変異は、HIV-1感染および関節リウマチに対する感受性の上昇と関連しています。[RefSeq提供、2011年5月]、疾患：IL10の欠陥はクローン病（CD）の感受性の原因となる[MIM:266600]。CDは、寛解型炎症性腸疾患（IBD）の一種です。CDは消化管のどの部位にも影響を及ぼす可能性がありますが、最も多くみられるのは末端回腸と結腸です。腸の炎症は腸壁全体に及び、断続的です。クローン病は一般的に自己免疫疾患に分類されます。機能：活性化マクロファージおよびヘルパーT細胞によって産生されるIFN- $\gamma$ 、IL-2、IL-3、TNF、GM-CSFなど、多くのサイトカインの合成を阻害します。、オンライン情報：インターロイキン-10のエントリ、オンライン情報：シンガポールヒト変異・多型データベース、類似性：IL-10ファミリーに属します。、サブユニット：ホモ二量体、組織特異性：T細胞、マクロファージ、肥満細胞、その他の細胞型を含む様々な細胞株によって産生されます。、

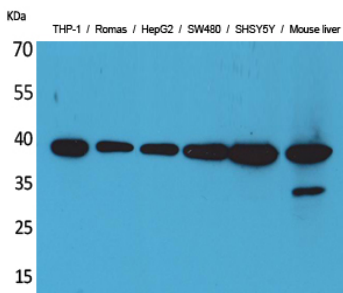
## 研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、Jak\_STAT、T細胞受容体、IgA産生のための腸管免疫ネットワーク、喘息、自己免疫甲状腺疾患、全身性エリテマトーデス、同種移植拒絶反応、

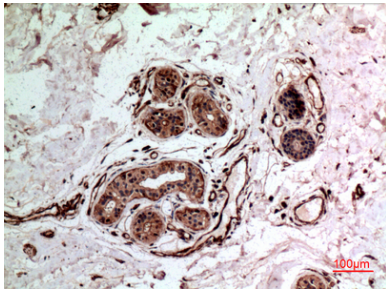
## 画像データ



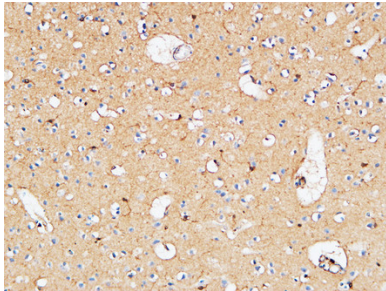
IL10抗体を使用したTHP-1細胞の溶解液のウェスタンブロット分析。



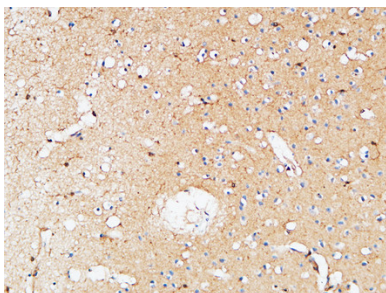
IL-10ポリクローナル抗体を用いたTHP-1、Romas、HepG2、SW480、SHSY5Y、マウス肝細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈した。



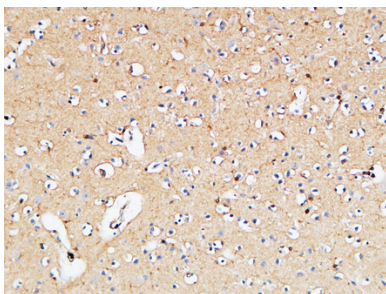
パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



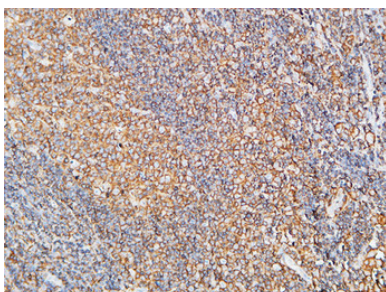
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



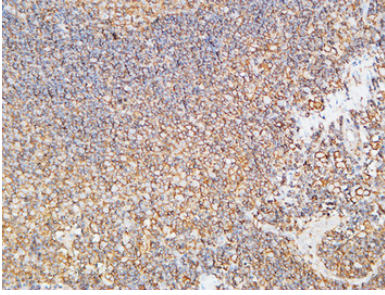
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



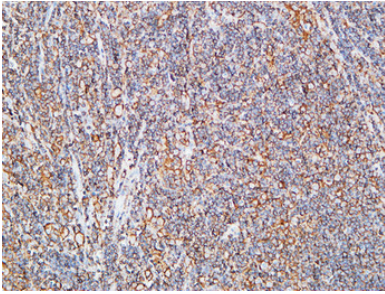
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。